

連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.194 (2009年6月30日)

発行人・川越敏良 編集人・小松義明

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL info@tokushima.jtuc-rengo.jp

すべての働く者の連帯で、ともに働き暮らす社会をつくろう

当面の日程

7月 4日(土) 衆議院選挙勝利、駅前街頭演説

11時45分～12時15分 (JR徳島駅前)

第45回衆議院選挙勝利7・4総決起集会

13時30分～15時 (クレメントホテル4F)

連合四国ブロック・政治研修会

15時30分～17時 (クレメントホテル4F)

平和の道。力あわせて大きな前進！ —平和行動inオキナワ—



「平和行動 in 沖縄」が6月23日～24日の2日間にわたり那覇市を中心に行われ、全国の地方連合会と構成組織から約1,500人(徳島からは加村副事務局長、森本徳島地協議長の2人が参加)が参加した。

23日午後からの「2009 平和オキナワ集会」は、第1部で「平和な地球を求めて」をテーマに、若者たちの平和メッセージとして那覇市青少年舞台プログラムのメンバーによる「那覇センセーション」の劇中劇。平和への証言・朗読劇「大学生

の沖縄戦記録」を平成生まれの3人の若者が行い、最後に「歌で綴る沖縄の戦中戦後」をコンビ芸人「ゆうりきやー」のナビゲートで、それぞれ披露された。

第2部の平和式典では、主催者を代表して古賀・連合事務局長が「沖縄戦の惨劇を決して忘れてはならないし、決して風化させてはならない。県民の皆さんは今なお戦争の結果に苦しめられている。昨年だけでも米軍・軍人が関係した事件・事故に憤りを禁じえない。その要因は、在日米軍の地位や基地の提供などを定めた日米地位協定に問題がある。問題の解決には日米地位協定の抜本見直しが必要だ。5月には、アメリカの労働組合ナショナルセンターであるAFL-CIOとの定期協議の中から、可能な限りの協力を行うとの約束を得た。平和の尊さ・大切さを家庭や職場・地域で語り継いでほしい」と訴えられた。また、連合沖縄の仲村会長は戦後64年がたっても



米軍基地が集中している。県民は基地の重圧に苦しめられている。戦争をできる

国にはしてはならない。私たち一人ひとりが、反戦の声を職場、地域から上げていくことが重要だ」と述べた。

続いての来賓あいさつでは、沖縄県知事のメッセージを県商工労働部長が代読された。連合北海道副会長と連合沖縄・自治労県本部書記長から平和メッセージの後、連合沖縄の仲村会長より、次の平和行動の地、連合広島の伊丹会長にピースフラッグが手渡された。

最後に、連合沖縄女性委員長による平和アピールを全体の拍手で採択し、集会を終了した。

翌24日は、全国から約460人の参加者が、連合沖縄青年委員会のメンバーがガイドをしていただく「ピース・フィールドワーク」が実施され、南部戦跡と米軍基地の2コースに分かれてバス12台で視察を行った。

また、夕方6時から、県庁前広場に地元からの参加者も含め約1,000人が集結し、「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の改正を求める」集会が開催された。

集会は、オープニングのミニコンサートの後、大塚・連合総合組織局長が「戦争は加害者、被害者すべての人が不幸になり、過去の現実を忘れてはならない。米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本見直しを求める運動を広げていこう」とあいさつ。続いて、連合沖縄会長の報告・提起と民主党沖縄県連代表の喜納昌吉参議院議員からの連帯メッセージを受け、連合沖縄青年委員長のシュプレヒコールの後、県庁前広場から牧志公園に向けて、国際通りをデモ行進した。

